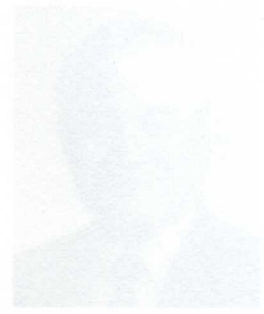


美術界の30周年記念誌



この30年、美術界は大きな変革を遂げ、現代美術の隆盛を知らしめた。その中心には、常に新しい表現を求め、挑戦を繰り返してきた作家たちがいた。彼らの創造力が、この時代の美術を形作り、世界にその輝きを放ち出した。

この30年、美術界は大きな変革を遂げ、現代美術の隆盛を知らしめた。その中心には、常に新しい表現を求め、挑戦を繰り返してきた作家たちがいた。彼らの創造力が、この時代の美術を形作り、世界にその輝きを放ち出した。

この30年、美術界は大きな変革を遂げ、現代美術の隆盛を知らしめた。その中心には、常に新しい表現を求め、挑戦を繰り返してきた作家たちがいた。彼らの創造力が、この時代の美術を形作り、世界にその輝きを放ち出した。

この30年、美術界は大きな変革を遂げ、現代美術の隆盛を知らしめた。その中心には、常に新しい表現を求め、挑戦を繰り返してきた作家たちがいた。彼らの創造力が、この時代の美術を形作り、世界にその輝きを放ち出した。

この30年、美術界は大きな変革を遂げ、現代美術の隆盛を知らしめた。その中心には、常に新しい表現を求め、挑戦を繰り返してきた作家たちがいた。彼らの創造力が、この時代の美術を形作り、世界にその輝きを放ち出した。

1993  
OCTOBER



加納高等学校学校長

## 鳥居 甚吾

美術科同窓生の皆さん、創立30周年、誠にありがとうございます。関係者の一人として一緒に慶賀したいと思います。

30年と言えば、人の一世代、親子の生まれ変わりに、おおよそ相当する期間です。

今、私は、昭和57年発刊の「味爽」——音楽科・美術科の歩み——の中にある「座談会美術科20年を語る」を読んでみて、草創期の美術科の姿と現在の美術科の姿を重ね合せてみて、隔世の感を覚えます。

創立時は、美術科としての施設設備も予算もなく、在るのは、小さな美術教室兼HRにイーゼルと少数の石膏像のみ。デザインが主で、就職する者が多かったようです。

それに比べて、現在は、芸術棟、美術棟、普通教室で油絵、日本画、彫刻、デザインとグループごとに分れて指導を受けています。

私のような普通科しか経験のない者には、芸術短大を思わせるような施設設備です。生徒の進路は、ほぼ100%美術系大学への進学希望です。上を見れば、切りがないでしょうが、全国の美術科・コースの設置高校の中でも、本校は、恵まれているのではないのでしょうか。

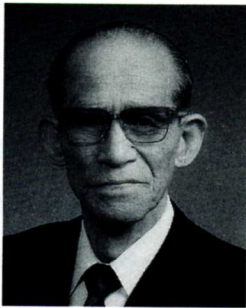
しかし、現在このような姿になれたのは、日本の経済の豊かさもさることながら、やはり、過去30年間の恩師たちの涙ぐましいご努力と同窓生の皆さんの素晴らしい実績と卒業後の国の内外における輝かしい活躍が、関係者を動かしたものと確信いたします。

私は、時折、美術科の生徒の実習状況を見学することがありますが、生徒は、背後に近づいても、私の接近に気付かぬほど、熱心にキャンバスに向かっております。羨ましさすら覚えます。そして学校生活が楽しいと答える生徒が多いのを知り嬉しく思っております。

ただ、美術系進学者が意外に多いのと、入学が困難である現状から、担当職員も生徒自身も、大へんなプレッシャーがあることも事実のようです。

したがって、いつの時代も、いろいろな意味で、美術科もご苦労が多いのだと理解しております。ただ、3年間、同じクラスメートと同じ生活をするのですから、卒業後も共通の思い出も多くなるのではないのでしょうか。また、横だけでなく、縦の人間関係もあるようで、美術科だけで同窓会が持てるのは、むべなるかなと思います。

私は在校生の諸君が、先輩諸兄を凌ぐ実績を上げてくれるよう、職員ともども激励して参りますので、同窓生の皆さんも、暖かく、後輩を見守ってやっていただきたいとお願い申し上げます。また、皆さんの益々のご活躍ご発展を心から祈念して、美術科創立30周年記念のご挨拶といたします。



加納高等学校同窓会長

## 小林 三之助

岐阜県立加納高等学校の美術科が創立されて以来30年の歴史をもたれ、記念事業を挙げる内の行事として、30周年記念誌を発行されることは、誠に有意義なことと賛意を送らせて頂くと同時に同窓会長を仰せつかっております故を持って30周年記念誌に投稿させて頂ける光栄を、心から感謝申し上げる次第であります。

記念誌を発行されることには、加納高校美術科が設けられた昭和38年4月から数々の思い出が将来永久に受け継がれ、言い伝えられ、先輩の残された素晴らしい足跡を伺い知ることが出来るし、また卒業生の中で現在活躍中の絵画・美術・工芸の大家の近況等も知り得て、教える事のできる訳で、誠に結構な事と双手を挙げて喜ぶ次第であります。

絵画の大家のことで先日思わぬ話に心を踊らせた思い出があります。岐阜市の有名な料亭の廊下の入り口に『舞い妓』さんの絵が飾ってあるので、料亭の女将に作者の名を尋ねたら、元加納高校の秋山文雄先生の作だとの返事が返ってきました。

秋山先生が大変な大家であることは聞いておりましたが、私は秋山先生が加納高校にお見えの頃には面識がないので、先生を全く存じ上げなかった次第で、その『舞い妓』の絵が今も目の前に浮かぶと同時に秋山先生に対する尊敬の念が心の奥深く刻み込まれ、一度是非お目に掛かりたい!!と願っておる次第です。

こと程左様に美術の域は、本人対本人ではなく世の見知らぬ人が、その人の作品を通じて知り合っていることの良さを深く感じさせられた出来事でありました。

岐阜県下は勿論、中部地区でも高校で美術科と云う特別学科を有するのは加納高校だけだと聞いております。

この唯一の高校美術科が益々有名になる様、大巨匠の続出を請い願って、つたない筆をおきます。

